No.594

広報 ここのえ

九州で一番の新米

2005
11

平成16年産の「日田・玖珠地方のヒトメボレ」が九州で唯一の食味ランキング・特Aに選ばれました。今年も「九州一のおいしい新米」到着です。

http://www.town.kokonoe.oita.jp/

■一番人気を集めた催し物は町内のこども園年長組合同の「歌と手話ソング」

■もちまき

■淮園小学校５・６年生による南中ソーラン

2万1千人の笑顔はじける

第11回ふるさと祭りが10月22日から23日まで活きいきランド一帯で行われ、2日間で約2万1千人（主催者発表）が訪れました。

両日ともメインステージ（多目的広場）を中心に多彩な催し物が行われたほか、たくさんの出店や作品展、体験コーナーなどがあり、訪れた人は心ゆくまで楽しんだほか、住民同士の久しぶりの再会を喜ぶ、「住民が心一つになる」祭りらしい光景があちらこちらで見られました。

一方で、このお祭りも10回を超え、「祭りの目的がよく見えない。事業効果などを踏まえ、見直すべき」との意見も聞かれました。折しも今年は自律に向けたまちづくり元年。住民参加のまちづくりとともに行政改革が進められており、今後、ふるさと祭りも、そのあり方を含め、一からの見直しが行われるようです。

■食べる、食べる、笑う、食べる・・・・

■自然学校開校準備室を設置したセブン－イレブンみどりの基金も初登場。自然な甘さの米あめが人気を集めていました。

■きのこの展示もありました。付近の山を３時間かけて探したところ、55種類のきのこを見つけました。半分ほどが食用。「九重で採れたきのこ写真展」は12月末までケアポート渓和で行われています。

■今年も姉妹都市佐世保から登場。「させぼ飛躍年隊2005」と「さるくＣｉｔｙ４〇３遊歩隊」

■69チームが集まり２日間にわたって激戦が繰り広げられたゲートボール大会。栄冠を手にしたのは後河内地区のポピー。監督の佐藤秋吉さんは「日頃の練習の成果を出すことができました」と喜びの表情で語っていました。

■2008年大分国体に向けてホッケーコーナーが登場。アテネオリンピックに出場した岩尾幸美さんのユニフォームなどが展示されていました。国体マスコット・めじろんも人気を集めていました。

■開会式では、まちづくりに貢献があった12の個人・団体のみなさんが表彰されました。

商工会青年部（吉光豊部長）では、九重町が特産化しようと力を入れているブルーベリーと白ねぎを使った料理を開発。ふるさと祭り会場で試食会を行い、用意された800食（２日間）がすぐになくなるほどの人気を集めていました。

開発されたのはブルーベリーソース、白ねぎドレッシング、ブルーベリーちらし（寿司）の３品。お菓子の材料としてイメージが強いブルーベリーを、料理として受け入れられるものにするのに苦労した様子。ブルーベリーソースは、サラダはもちろん、肉料理や冷奴にかけても、さっぱりとした美味の万能選手。ブルーベリーは加熱すると色が変わることから、生の状態を生かすのがポイント。ブルーベリーちらしは「見た目もきれいで、とても美味しい」とこちらも人気を集めていました。

商工会青年部では、今回の試作品の商品化に今後取り組むことになっており「観光業者や農業関係者、行政などとも連携をとっていきたい」と話していました。

司会

佐藤剣之助さん

結婚式の司会の前の日に、風邪にかかり、声が出なくなったことも。

「そのときは、どうにか乗り切りましたが、この仕事はすぐに代理がきかないので、本番前は体調を整えることに一番気をつけます」

失敗をしたときは今でも気分が沈みますが、逆に自分なりにうまくいったときの気持ちよさは格別だと話します。そんなときはアドリブもうまく決まります。

「もともと人前に出るのは苦手なほうなのですが、ただそれが終わってからほめてくれたり、いろんなところで声をかけてくれたりしたとき、司会をやって来てよかったなあと思います」

昭和55年に九重町へ帰省後、ひょんなことから声がかかり、司会ボランティアを再開。今や九重町のイベントに「佐藤さんの声」は欠かせないものになりましたが、意外や「自分の声は良いとは思わないんですよ。自信ないですね」。

今でも本番前は緊張のあまり足が震えるといいます。

「身体が続く限り、みなさんから声をかけていただく間は続けることになるでしょう」こう話す佐藤さんに、これで良いという妥協はありません。催し物に行き、そこで他の人の司会振りを研究することも良くあります。

司会をする日には、友人がいつも見に来て慰労してくれるのが、とてもありがたくて、うれしいと佐藤さん。10月23日、ふるさと祭りが終わった日の夜も、友人と一緒に楽しそうに酒を飲み交わす光景が見られました。

「子どもの頃、スポーツ中継のアナウンサーがかっこいいなあ、と思って。夢・・・う～ん、そんなのを持ち続けていたんでしょうかね」

こう話す佐藤剣之助さんが司会ボランティアを始めたのが今から35年前。

佐藤さんは高校卒業後、大阪市にある材木問屋に就職。ずっと持ち続けた夢に少しでも近づきたい、そんな気持ちから仕事の傍らアナウンサー学校に通いだしたのが、30歳の頃。すでにアナウンサーとして就職できる年齢ではありませんでした。回りは若い人ばかりでギャップを感じていたそうですが3年間の学校生活は「とても楽しかったですよ。九州の人はサ行に弱点があるといわれるんですよ。それには苦労しましたねえ。未だ直っていません」。

最初の司会は、大阪のホテルでの友人の結婚式。以後、多くの結婚式で司会をしてきましたが、失敗もたまには。

「最大なのは、花婿と花嫁の父親を取り違えまして。1、2回そんなことがありました・・・」

ならないこの3人

ふるさと祭りは多くの人たちの力で成り立ってきました。
その中でも、特に「なくてはならないこの３人」を紹介します。

「あの、これ全部、永楽さんのですか・・・!?」

郡内のイベントで、音響ボランティアとして活躍中の永楽清徳さん。手持ちのセットが半端でない。最初に見た人は、驚くはずです。現在のセットは5年前に新調したもので、総出力は3千2百ワット。1万人規模のイベントに対応できます。その大きさは写真をごらんいただくとして、これほどの、のめり込みようは、感心しすぎても足りないような。とにかくすごい。

永楽さんは「良くもまあ、ここまで来たというか、来てしまったというか。誰か止めてーという感じ（笑）」。

永楽さんが、音響と出会ったのが、20年ほど前。体調を崩したのがきっかけでした。

「メニエルにかかってね、先生から自分のやりたいことはないか、と言われてね。趣味に打ち込むことを進められたんですよ」バンドをしていたこともあり、音響には関心がありました。全くの独学の末に、他人からもらったスピーカーに手作りの枠をつけて、アンプの電源を入れ、最初の音が出たとき、「感動してねえ。そう、電気ショック。それがのめり込むきっかけになりましたね」。

以後、イベントがあれば出かけ見学、次になにを作ろうかと考える日々が始まります。いつの間にか、病気のことは忘れてしまいました。

「でも、音響がなかったら、どうなっていたかと思いますね・・・」

スピーカーをはじめとする、機材のほとんどは手作り。仕事を終えて、一杯気分で作るときがとても楽しいと話します。用途の違うものが、永楽さんの手にかかると、音響機材に化けることも。ケーブルを巻く機械もその一つです。

「農薬を買いに行ったら、ホース巻き取り機が目に入ってですね。その瞬間、体が止まりました。これだ、と（笑）」

失敗も数多く。

「最大の失敗は10年くらい前の防災訓練の時。雨で機材に湿気が入ったのか、開会2分前になっても音が出ないことがあったんですよ。急きょ、救急車のスピーカーを使いました。穴が入ったら入りたい、ちゅうかねぇ・・・でも、いつも順風満帆なら発展がないと思うんよ。何で失敗したか振り返って次につなげる。仕事も同じですよね」

十人十色という言葉があります。音響の世界も、組み合わせやバランスを調整することで自分のイメージの音を組み立てることができます。十人いれば、十人とも音が違ってくる。そこが魅力だと永楽さんは話します。人と知り合える楽しさも続ける原動力。

「現場で苦労するのは、音のバランスを瞬時にとらなければならないこと。でも、出演者の

司会

小城富美代さん

小城富美代さんは、ＪＡ玖珠九重に勤務の傍ら郡内で行われる催し物などに司会として数多く参加。その技術は「プロ級」との声が聞こえてくるほど。

きっかけは大分県有線放送アナウンスコンクールで県代表に選ばれ、全国大会に出場したことでした。これが思わぬニュースになり、多くの人の知ることに。以来、司会の話が舞い込むようになったといいます。

「発音・発声が基本というのは朗読（放送）と司会に共通ですが、ステージ（司会）は進行表どおりに進まないのが常。アクシデントがいろんなときに起こります。その最中は、不安でいっぱいなんですが、終わってみると、おもしろいところでもあるんですね」

臨機応変の対応を求められるのが司会の難しいところ。そのためには経験が一番ですが、小城さんの場合、本や絵本、雑誌、新聞なども大きなエネルギー源になっています。子どもの頃から本が読むことが大好きだったそうで、今でも、おすすめの本が2、3冊はすぐに出てきます。そうやって蓄積されてきた「本からの力」が、いざというときや表現力を鍛えるのに役立っています。

最近では、四季折々の風景や草花を言葉、文として伝えられるような練習を自動車での道すがらしています。

「いろんな言葉を使って、思っていることを伝えるって、とても難しいですよね。コミュニケーションとして言葉を考えたとき、人間的なぬくもりが言葉には求められると思います。だから、いつも『わかりやすく』『丁寧に』『感じの良い』の3つをモットーに、ステージに臨んでいますし、これからも、ずっと心がけていきたいです」

司会として関わった資料などはすべてとってあり、段ボール箱で何箱にもなっています。

「式典やイベントを通して多くの人と出会うのが一番です。その地域の郷土料理などを教えていただいたこともありますし、暖かい心にふれさせていただいています」

印象深いことはありすぎてどれが一番かあげるのは難しいのだそう。司会ボランティアは「仕事以外で、私を支えてもらっていることのひとつ」と話します。依頼があったときは、いつもこう答えるそうです。

「私でよければ、一生懸命務めさせていただきます」

これからもこの言葉に変わりはありません。

「多くの人が支えてくれているんだなあ、と思います。やっぱり皆さんに喜んでいただけるのがとてもうれしいです」

長年の夢という「絵本の読み聞かせなどの朗読ボランティア」も準備中です。会場全体をやさしく包み込むような声が、誰か必要な人に届けられる日もそう遠くないかもしれません。

小城さんの「一生懸命」は続きます。

音響

▶今までの集大成。自分自身も大満足というシステム（製作期間約1年）のスピーカーの前で。隣は娘の理恵さん。よく手伝ってくれます。

永楽清徳さん

ふるさと祭り なくては

人と一緒に演奏しているような気持ちになってうれしいですね」

イベントあるところに永楽さんの姿ありと言うほど、郡内のイベントではすっかりおなじみの存在になっています。年間に40回ほど音響ボランティアで参加しています。イベントの移り変わりも見てきました。

「お金をあまりかけずに、知恵を絞ってみんなで楽しもう、というイベントが増えていますね。九重町のイベントは、みんな真剣なのがいい。イベントの達人が多く、半端じゃない。手作りの良さを残していると思います。そういったイベントの〝縁の下の力持ち〟になりたいですね」

「終わって、今日はありがとうと言ってくれるのがうれしい。それに、自分は趣味でしているというのを理解してくれて、みんな気持ちよく手伝ってくれるんですよ。自分一人で音響は出来ない。とてもありがたい」と話す永楽さん、最初は冷たかった家族も、最近では機材の積み込みを手伝ってくれるまでになりました。「音響は女房の次に大事」と笑います。

「今日は気持ちよく出来たなあ、と電源が切った瞬間がうれしいですね」と永楽さん。その瞬間、次の音響のイメージへのスイッチが入ります。

「これで完璧ではない。一生求め続けるもの。まだこれからも続けていきたいです」

町の未来に光がさしてきた

～ブロードバンドに関するアンケート結果

九重町では、平成17年度から21年度を計画年度とする情報化推進計画を策定中ですが、その案を７月に公開し、住民からの意見等を募集しました（パブリックコメント）。

今回の計画の一番の課題となるのが、「町内のブロードバンド化（→NOTE）」。九重町は、自治体としては県内で唯一のブロードバンド空白地帯となっており、その解消に向けた取り組みが緊急の課題となっています。そこで、町では広報ここのえ８月号折り込みにより、ブロードバンド化についてのアンケートを実施、381件の回答を得ました。また同時に商工や観光、建設業を行う383事業所に向けてのアンケートも実施しました。

その結果が出ましたので、お知らせします。

なお、一部の質問については複数回答を可としたため、回答数が実回答者数を上回った項目があります。

町では今後、「情報化推進計画」を完成させ、町内のブロードバンド化についても来年度から取り組みを始めたいとしています。

NOTE
ブロードバンドとは
高速かつ大容量のデータをやり取りすることができるインターネット。代表的なものに光ファイバーやＡＤＳＬがある。

	質問項目	回答項目	一般家庭回答数	項目全体に対する割合	事業所回答数	項目全体に対する割合
問１	あなたの家庭にパソコンはありますか？	はい	269	70.6%	287	74.9%
		いいえ	106	27.8%	90	23.5%
		無回答	6	1.6%	6	1.6%
問２	あなたはインターネットをご存じですか？	はい	341	89.5%	360	94.0%
		いいえ	37	9.7%	17	4.4%
		無回答	3	0.8%	6	1.6%
問３	あなたは高速インターネット（ブロードバンド）を利用したいですか？	自宅で利用したい	277	64.6%	216	48.6%
		事業所で利用したい	65	15.2%	150	33.8%
		分からない	54	12.6%	60	13.5%
		利用しない	33	7.7%	18	4.1%
問４－１	（問３で「利用したい」と答えた方）高速インターネット接続について、次のような金額の場合、利用しますか？ 初期導入費　30,000円 月額利用料　5,000円程度	利用したい	198	64.5%	219	79.6%
		将来的には利用する	82	26.7%	53	19.3%
		利用しない	27	8.8%	3	1.1%
問４－２	（問３で「分からない」と答えた方）今後の利用は？	検討中	10	14.5%	20	23.3%
		将来的には利用する	27	39.1%	46	53.5%
		利用しない可能性が高い	32	46.4%	20	23.3%
問５	（問４で「利用しない」や「将来利用する」と答えた方） インターネットを始めるにはどんなきっかけが必要ですか？	月額利用料金が下がる	44	47.3%	18	32.1%
		パソコンの購入	22	23.7%	19	33.9%
		パソコンの研修	27	29.0%	19	33.9%
問６	インターネットで多くのチャンネルのテレビ放送が見られるとしたら、見たいですか？	見たい	291	76.4%	302	78.9%
		見たくない	27	7.1%	24	6.3%
		分からない	55	14.4%	54	14.1%
		無回答	8	2.1%	3	0.8%

町に届いた声

アンケートで意見・要望欄を設けたところ、179件の記入をいただきました。その中からいくつかを紹介します。

●田舎だからしょうがないじゃすみません。田舎だからこそ整備してほしいです。●少しでも早めの情報化事業を推進してもらいたいと願います。田舎にいても快適な生活が送られるように・・・「情報」はたいせつですよネ。●ブロードバンド環境はほしいが初期投資・月額利用料ともに高すぎるのでこれでは利用したいと思う世帯は少ないのではないか？●絶対にお願いします。●九重町が情報化推進と言い出してからすでに10数年以上が経過していると思います。世の中は急激に情報化が進んでいます。しかし、この町はいかなる施策を講じてきたでしょうか？結果としてブロードバンドの空白地帯になっているのが現状ではないでしょうか。ニーズがないから施策がないのか？施策がないからニーズがないのか？いずれにしろ採算性がないからと片付けざるを得ないことになってしまっています。広報ではよくぞ特集していただきましたが果たして何人の人がその現状を理解したのでしょうか？●自律を目指す以上、都市部との情報格差は致命的だと考える。地域のITリテラシー（パソコンを使いこなす能力）の向上のためにもインフラ整備が必要であると思う。インターネットの利用例としてテレビ放送が示されているがエンターテイメント系のことを前面に出すと本質とかけ離れたように感じる。少なくとも地方から情報発信の手段であることを一言入れて欲しかった。●一気に光ケーブルを全町内に導入すべきだ。いつまでも「情報化後進地域」ではますます元気のない地域に埋没しかねない。最初は行政主導で引っ張っていくことが必要。大いにやってほしい。他から入ってくる人から魅力のある町だと思われないと勢いがつかないですよ。●私は年寄りですので何も使えません。でも現代社会について行くためには情報化事業は進めてもらいたいと思います。72歳のおばあちゃんです。●国・地方も破産状態であり、国からの交付金等は厳しいものになると思われる。ブロードバンドは大吊橋の通行料金収入等での余裕が出来た段階で計画の推進を。●車を持っていない人や高齢者でも勉強が出来るように小地区でも研修してほしい。●九重町だけぽっかり空いていると知って（広報７月号）淋しくなりました。一日も早く空白が埋まらないかと思っています。●数ヵ所の事業所で業務に支障が出ていると聞いています。豊かなくらし、経済発展のためにも早期の事業着手をお願いします。●必要か否か？というより「あって当然のもの」と考えています。●合併をしない九重町にとって、情報化を進めるのは当然のこと。うわさで役場は高速回線が来ていると聞きました。本当ならば　え！？って感じ。職員が町民の立場になってというのは無理なのでしょうか？●普通の電話回線では大きなファイルのやり取りが出来なかったり長時間接続していると通話料をたくさん払わなければならなかったりと色々不便なことが多いです。●インターネットを使いたくてパソコンを購入しましたが、九重町というと、どこの店もあきらめ顔をされます。子どものためにも一刻も早い整備を●県内で唯一ブロードバンドのない町、九重町。今一番若者が住みたくない町となっている現実を考えてみてください。●パソコンは絶対必要です。子どもも若い人も中高年も老人も全ての人に必要と思います。●今興味を持ってない人も必ずその恩恵を受けると思います。●地理的ハンディーをなくし、都市と対等に情報を利用できる唯一の方法だと思います。●合併しないことを選択した九重町にはもっと整備していく必要があると思います。アンケートで多くの賛成が得られなくても整備は進めていくべきです。●ブロードバンドに限らず新しく生活を充実させようとするとお金がかかります。しかし家庭でも自治体でもそれには限りがあり、何に使うかはより慎重に考えなければ・・・・と感じています。●この地でブロードバンド化など夢のまた夢と思っていましたが、少しは希望を持ってよいのでしょうか？●必要なものには違いないと思います。財政的には楽ではないかも知れませんが期待しています。●ネットの環境が都市並みになれば田舎といえども住むメリットは非常に大きいと考えます。●プライベートでも仕事でも非常に世間から遅れていく感じがします。●いらない。●特に農業利用にメリットが大きいのでは？●確かに今の世の中はインターネットの時代かもしれませんが、あまりにも機械化されてしまったらどんなものなのかな。●個人的に投資金額が大きくなると無理が出てくると思われる。町民のみなさんがそれに応じてもらえるか大いに危惧。だが将来的には大いに必要を感じる●インターネット（パソコン）を使って農産業の活性化など活用の場面は大いにあると思います。ネット通販で農産物の販売などをし、大いに活用したい。●緊急な課題です。●観光農業を主体とした町の今後のあり方を考えたとき、必要。せっかくパソコン教室まで行ったことが生かされていないのではないか？現状は寂しい限りです。●二人だけで二人とも80歳以上ですのでわかりません。●情報化・スピード化ばかりが優先される世の中にあって、もっとスローにといった自治体があってもよいのではと思います。もうすでに十分遅れているブロードバンド化など考えず、かえってそれを町の特色としてしまっては。●ブロードバンド化はインターネットそのものの利用環境を整えるだけの効果ではなく、地域生活水準の向上、地域経済の発展、行政の効率化・高度化等の面において大きな効果があると思う。単独で生き残るためにはブロードバンド化は絶対に必要。●(現状の)あまりの回線の遅さになんだか時間がもったいない気がします。●若者の町内定住などを考えるとブロードバンド化は優先課題だと思います。●将来は今の数十倍という膨大なデータが交信されると思います。そうなれば当然光通信は必要不可欠。目先の予算だけを考えるのではなく将来を考えれば当然わかると思いますが。●少子高齢化・過疎化が進む農山村にこそ必要なシステムだと思います。●道路等交通アクセスの整備から見ればはるかに安く設置できる。ブロードバンドによるアクセスの早期実現を望みます。●機械に疎いのであまり関心がない。●我が家にパソコンがないので意見にならないかも知れませんが・・・もし持っているとしたらブロードバンドを利用したいと思います。多少の金額がかかっても。町も何かと大変でしょうが若者や子どもたちのために、障がいのある人のために、「先行投資」で始めたらいかがでしょうか。自然の残された田舎の町だけど、そんな面では進んでいる、いえ、田舎だからこそむしろ必要かもしれないとも思います。（うまくいけば近々買えるかも知れない）●老人には理解できないことばかりです。小さくてもきらりと光るまちづくりに必要なら学習機会が十分に得られることが必要。●観光に力を入れるのも良いがその地域に住む人のことも考えた行政を行ってほしい。●ブロードバンドをうまく利用すれば経済的効果はもちろん町内の情報のやり取り、町外への情報発信による今以上の観光PRやイメージUPによる見えない面での大きなものがあるはずです。大きな橋や運動場よりお金をかける価値はありますよ。がんばってください！●近頃のホームページはブロードバンド用に作成されナローバンドでは閲覧もままなりません。情報の収集や発信は出来ず、町は廃れる一方です。●過疎の町だから必要。この分野には投資し、各産業の育成をすべし。

トキの翼広がる

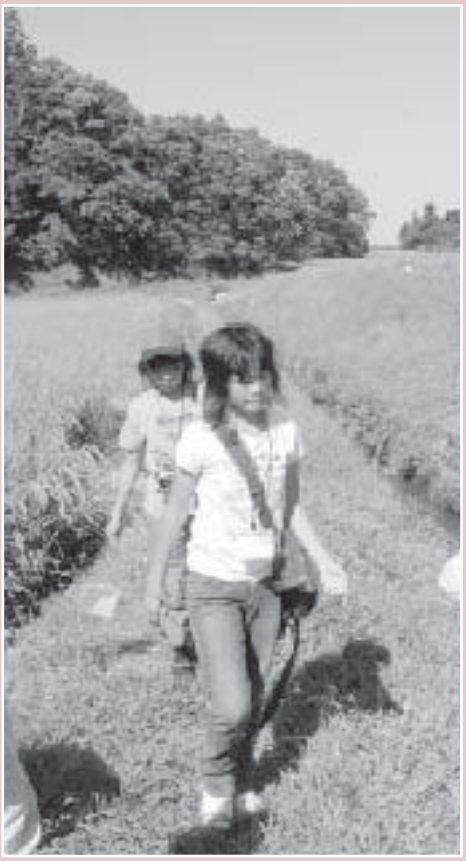
～セブンーイレブンみどりの基金「トキこども大使」

九重町にトキの住めるような自然を取り戻す活動を行っている「NPO法人九重（くじゅう）トキゆめプロジェクト（髙橋裕二郎理事長）」と、全国にコンビニエンスストアなどを展開するセブンーイレブンが店頭で集めた募金などで運営する「セブンーイレブンみどりの基金」による「トキこども大使派遣」事業が8月26日から29日に新潟県佐渡市で行われ、飯田地区の小中学生8人を含む12人が参加しました。

この事業は、トキの野生復帰そのものを目標にするのではなく、トキをシンボルにしながら、トキが住める環境を調べる過程で、人と自然、自然環境と地域社会の共存共栄を探るもの。参加の小中学生は7月に公募、作文などをもとに選考され、7月31日には「トキこども大使」認定証の交付が行われました。

「こども大使」は約13時間かけて佐渡市へ行き、佐渡市長への表敬訪問を皮切りに、佐渡博物館の見学や、現地の環境保護団体との交流、作業体験など15のプログラムをこなしました。佐渡市で見聞きしたことなどを大使は住民に発表・報告するとしており、「大使派遣事業」も継続していく予定です。

セブンーイレブンみどりの基金は、平成19年春の開設を目指し8月1日に「九重ふるさと自然学校（仮称）開校準備室」を飯田中村上に設置。職員2人が常駐し、自然環境保護活動などプログラム開発を進めています。また、町内の自然保護団体との連携にも重点を置くとしており、今回の「トキこども大使派遣」事業もそのひとつで、10月29日には「トキゆめプロジェクト」と共同主催で「日中トキ・シンポジウム」を開催しました。



▲田んぼでの生き物調査へ飛び入り参加

トキの髙場づくり作業に参加

髙佐渡トキ保護センター元所長の近辻宏帰さんの話を聞きました。

自然学校準備室
☎ 73－0001

アジアの空をトキが自由に羽ばたけるように

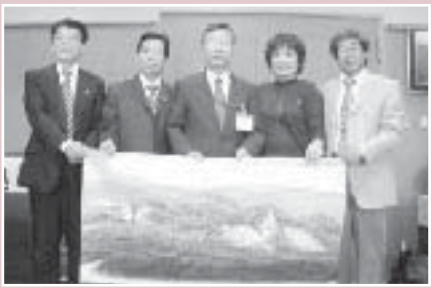
～日中トキ・シンポジウム

日中トキ・シンポジウムが10月29日に九重文化センターで行われ、約200人が集まりました。

環境破壊などのため日本で絶滅したトキの住めるような地域を取り戻そうと町内で活動をする「NPO法人九重（くじゅう）トキゆめプロジェクト（髙橋裕二郎理事長）」と、町内で平成19年春を目指し自然学校開校準備を行っている「セブンーイレブンみどりの基金」が主催したもので、日本と中国から合わせて7人が事例発表などを行いました。

シンポジウムではまず蘇雲山（ソ・ウンザン）さん（日本文理大学客員教授）の基調講演が行われました。蘇さんはトキが野生に帰るためには①個体数の確保②研究活動③人間と自然の共生のための地域づくりが必要とし、特に地域住民の協力と参加が不可欠と述べました。また中国でのトキ保護事例を発表した常秀雲（ジョウ・シュウウン）さん（中国陝西省野生動植物保護協会副秘書長）は、「トキの保護は日中の責任。一緒に貢献し、アジアの空にトキが自由に羽ばたける日が来ることを願っている」と話しました。

このほかに国内の事例紹介や「トキのすめる里づくり」をテーマにパネルディスカッションが行われました。会場には「九州で初めて発見されたはく製」や羽根などのトキにまつわる資料も展示されており、参加者は興味深そうに見ていました。



▲左から蘇さん、華さん、坂本町長、常さん、髙橋理事長

SCRAP

秋の九重をＰＲ

「秋の観光は紅葉色に心が染まる九重町へ」

九重町と九重町観光協会（池部俊慈会長）合同による観光宣伝が8月2・3日の福岡市に続き、10月19日、大分市内で行われました。

7月10日の集中豪雨災害被害により、この夏の宿泊者数が例年より2割少なくなったことから、秋の観光シーズンを前に、宣伝の「てこ入れ」を行ったもので、参加したのは町、観光協会、キャンペーンレディーなど約30人。

トキハ本店の前で観光パンフレットやカボス500個を配布したほかラジオにも出演。「秋の九重」をアピールしました。

SCRAP

かっちぇてもらって15回

九重町と九重町観光協会（池部俊慈会長）は10月22日から23日に姉妹都市の佐世保市中心部にある島瀬公園で行われた「かっちぇてアイラブフェア」に参加しました。同フェアは佐世保市の水産・農産加工品、お菓子など名品が集まるもので、今年で15回目。「かっちぇて」は長崎弁で「かてて」の意味。九重町は第1回から参加しており、今年も9人が農産物などをもって「かっちぇて」もらい、人気を集めていました。

News Scrap book

各分野から寄せられたニュースを集めました。

SCRAP

本番直前。気合入っています。

本番に向け仕上げに入った「飛梅の寄り道」（九重町民劇場主催）。今回の脚本は、大分市出身で東京都在住のプロの脚本家・原田佳夏（よしか）さんが担当しましたが、10月28日から30日にかけて原田さんが来町。練習風景を視察しました。原田さんは、「自分が目立とうとするのではなく、相手を引き立てることで、自分が目立つようなる」と団員にアドバイス。「これから1カ月が勝負。がんばりましょう」と激励しました。「飛梅の寄り道」は11月27日（日）午後1時30分、午後6時30分の2回上演。

問い合わせは九重文化センター（◀76－3888）まで。

◀右が原田佳夏さん、左は総監修の清末典子さん。

SCRAP

県内市町村の財政数値を公表

平成16年度の県内各市町村の財政状況が10月6日に大分県より発表されました。それによると財政のゆとりをみる「経常収支比率（低いほど良い）」、借入金の返済の負担割合を示す「公債費負担比率（低いほど良い）」それぞれが85.2%（県平均97.8%）、6.2%（同18.5%）と、いずれも県内で一番良いことが明らかになりました。しかし、県内自治体の財政状況がかつてないほど悪化している中での数値であり、「絶対数値で見たとき、九重町も決して良い数字とは言えない。引き続き緊張感を持った財政運営をしていかなければならない」と財政担当者。

墨に九重の美をみる

穴井倉記さん

墨に五彩あり。

墨一色の中にすべてがある。黒の濃淡で描かれながら、深い表現力をもつのが水墨画の魅力。樫原の穴井倉記さん（雅号は柏堂）は、九重町の多彩な自然を相手に水墨画を描き続けています。

「もともと自然観察は好きだったんですが、水墨画を始めて大雑把ではなくて小さなものも気をつけて見るようになってきました。九重の自然は俯瞰（ふかん）して眺めるのもよいが、小さなもの一つもおもしろいし、美しさがあります」

スケッチブックを持ち、出歩くこともたびたびで、体をよく動かすことにもつながり健康維持のためにもいいと穴井さんは話します。

「それに自然をよく見るというのは、頭をよく使うことにつながるんですね」

穴井さんが水墨画を始めたのが61歳のとき。健康維持のほか、「年をとってもみんなに愛されるような年寄りになりたい。そのためには何か趣味を持つとよい」と目をつけたのが水墨画。田舎で美術に接する機会を増やし、理解してもらいたいという気持ちもあったといいます。タイミングよく大分市で夜間教室が開かれていることを知り、1週間に1回のペースで、5年間通いました。

「水墨画は文房四宝（筆・紙・硯・墨）があればいいので、気軽に始めることができる」と穴井さん、みるみる上達していったものの、始めて3年たった頃、壁にぶち当たります。

「自分の思うような表現がなかなかできなかった」と当時を振り返りながら、気軽に始めることができるものの、「水墨画は技術だけでなく精神が伴わなければならず、奥が深いものです」。かつ「自分の心情を他人に訴える力を作品が持たなければならないのが難しいところ」。壁を乗り越えていくにも、「ただ、ひたすら努力しなければならないんです」。その結果、「自分の思うような表現ができたときが一番うれしいです」と穴井さん。

始めて約10年、他人に教えられるレベルになったのをきっかけに開いた教室は現在でも続いており、各地区公民館を中心に4ヵ所で月9日、延べ30人に教えており、「みなさんが描けるようなるのを見るのが楽しいですね」。このほかに1ヵ月に1回の短歌会、社会福祉協議会広報紙「ふれあい」の連載と多忙な毎日です。さしあたりの目標は88歳になったら個展を開くこと（現在84歳）。また、最近は子どもの絵画コンテストの審査員を務めることもあり、「よく観察している。それに大胆」と目を細めます。穴井さん自身もこれまで国内外でのコンテストで多数の受賞歴があります。

「（コンテストの応募は）自分の位置（存在感）を確認する意味が大きいです。画家としての公認を受けることで、一生懸命やったなあと思いたいです」

◀水墨画教室

特にヨーロッパで、水墨画は注目を集めており、穴井さんも各国で受賞、作品出品の申し入れがよくあるようです。

しかし、自分の絵の出来を確かめる一番の存在が妻のラクエさん。

出来上がった作品は、まずラクエさんに見せるそうですが、指摘されることがいつも的確だといいます。

「5年間、大分市の教室に通ったときにも心配だったのか、夜遅く帰るまで待っていてくれたし、今もいろいろなところに出かけていっても、全然文句を言わないんです。妻には一番感謝しています。（妻に作品を）ほめられたときは、うれしいけど、指摘されたときは、うーん、と考えてしまいます（笑）」

水墨画教室に関するお問い合わせは各地区公民館か穴井倉記さん（☎77－6157）まで。

絵筆で九重の自然を満喫

「九重の自然を描く絵画展」が10月16日から23日まで九重文化センターで行われました。

ふるさとの美しさを、作品を通して再認識することなどを目的に始められたこの展覧会、14回目となった今年は県内外から147点の出展がありました（うち約１割が初出展）。

飯田高原や三俣山、湧蓋山を油絵で描いたものが多く、「雄大さが人々を惹きつけているのだろう。寺床も絵画スポットとして人気が出ている」と実行委員長の藤澤昌由さん。大分市からの出展数が一番多く、続いて佐世保市で地元からは17点。この展覧会は町内の絵画人口の裾野を広げることも目的とされていますが、「伸び悩んでいる。描いている人、始めたいと思っている人はたくさんいるが受け入れ態勢がない」と前出の藤澤さん、今後は絵画展のほかにグループ展、個展の開催の環境づくりをしたいと話していました。

九重の自然を描く絵画展

今回は宮崎県延岡市在住のアマチュア画家・重黒木（じゅうくろき）サチ子さんの作品30点を集めた企画展「魅せられて九重」も行われました。「色があふれる秋と春が好き」と話す重黒木さんの作品は、空気遠近法（距離が遠くなるほど色調を明るくぼかし遠近感を出す手法）を使い、見る人を自然の真っ只中にいるような気にさせるもの。訪れた人は「絵が光り輝いている」や「いっぱい描き込んでいるのに、無駄がない」と感嘆の表情で作品に見入っていました。

◀重黒木サチ子さん

絵画を始めたい人は生涯学習センター（☎76－3888）までお問い合わせください。

伝説を未来へ生かす

九重町歴史資料館開館５周年を記念し、「もう一つの平家物語～平家の落人伝説」が10月５日から25日まで、九重文化センター内の同館で行われました。

平家落人伝説は1185年の壇ノ浦の戦で平氏が敗れたことをきっかけに生まれたもので、全国各地に伝えられています。九重町内でも町の北端部に位置する平家山（標高1029メートル）に「平家の落人伝説」があり、その一部は源氏の追っ手から逃れるために、さらに山深く入り、現在の宮崎県椎葉村に移ったとされています。

今回の企画展では「椎葉の平家落人は一時平家山に隠れ住んだ」と記述された「椎葉山由来記」（椎葉民俗芸能博物館所蔵、江戸時代）をはじめとした60点を展示。伝説を題材にしたイベントのポスターやおみやげなどの展示もあり、過去を振り返るだけでなく、伝説を生かした「未来への取り組み」も紹介されていました。

17文字であざやかに

第13回長野馬貞顕彰俳句大会が９月27日に東飯田公民館で行われました。

長野馬貞は九重町出身の俳人。江戸時代に活躍し、松尾芭蕉晩年の弟子・野坡（のば）の門下であったことから、その作風は芭蕉が初期にもっていたわび・さび、晩年見られた軽み・通俗性の両方をもっていたとされます。

この大会は、馬貞の命日（９月19日）前後で毎年行われているもので、その偉業を伝えると共に、俳句を通じて文化の向上・心の豊かさの広がりを目指すものです。

この日は指導者として倉田紘文（こうぶん）さん・足立雅泉（がせん）さんをお迎えし、県内外から応募のあった210句の中から両氏が選んだ特選10句・入選20句の表彰を行ったほか、当日参加者から投句を集め、その腕前を競う催しもあり、秋の七草が飾られた会場は穏やかな雰囲気に包まれていました。

「馬貞の忌」は九重町の秋の季語となっています。

伝統を引き継ぐ　町田楽保存会

今年も町内各神社で秋祭りが行われましたが、伝統を引き継ごうとする新たな動きが始まったところもあります。

小倉神社（川東）では、「町田楽保存会」による奉納が今年から始まりました。同社の楽は250年近くの伝統があり、これまで、域内4地区持ち回りで奉納していたものの、人口減少のため、この形式が困難に。各行政区からの推薦などにより集まった約100人からなる「保存会」を結成。また、参加しやすいようにと、祭りの日程を10月11日から13日（固定）から体育の日を含んだ3連休に変更しました。

町田楽は「杖楽」にあたり13組の杖、太鼓、笛などからなりますが、4地区それぞれの形が違っていたため、一つにまとめるのに大変な苦労があった様子。特に杖は違いが大きかったと関係者。楽器もリズムの違いなどがあったようです。今年は準備期間が1ヵ月半しかとれず、杖さばきなどで戸惑うシーンがまれに見られましたが、保存会会長の永樂篤憲さんは「最初の年としては十分の出来。最初、うまく立ち上がるか心配していましたが、みなさんの協力があり、ここまでくることができました。これからも継承していきたいです」と話していました。

＊町田楽については今月の「ここのえ時間旅行」（23ページ）でも取り上げられています。

ハルカのレストランで食べたいこの3品

ＮＨＫ朝の連続テレビ小説「風のハルカ」は大好評放映中ですが、ヒロインのハルカが目指すのはスローフードレストラン。一方、舞台となる大分県は、古くから豊かな食文化があり、たくさんの伝統料理があることから、番組のエンディングでは県内の郷土料理が紹介されています。

九重町からは「椎茸のステーキ」、「極楽温鶏」、「きじおこわ」の３品が取り上げられることになり、その撮影が10月６日に行われました。「きじおこわ」は長者原のタデ原で硫黄山の噴煙とススキをバックに撮影。番組では６秒ほどしか流れませんが、光やススキの具合などを見ながら、ほぼ１時間かけて丁寧に撮影されました。町内で撮影された映像と料理はどれも自信作。ぜひご覧ください。

番組で紹介された料理の写真とレシピはホームページで公開されています。
http://cgi2.nhk.or.jp/oita/shokutaku/recipe.cgi

「全国一の環境」で若さ疾走

第10回九重町長杯九州選抜高等学校駅伝競走大会が10月10日に飯田高原一帯で行われ、九州・沖縄各県、さらには高知から参加した強豪22校とオープン参加６チーム、合わせて28チームが７区間、42.195キロメートルを競いました。その結果、熊本国府高校が２時間10分11秒で優勝。２位は白石高校（佐賀県）、３位は九州学院（熊本県）でした。

この大会は、12月の全国大会（京都）に向けた県予選（11月）の前哨戦と位置づけられており、ライバル校の実力を知る絶好のチャンス。また、夏から３回にわたり九重町で行われた合宿の総仕上げとも言えます。「涼しく、コースも起伏に富んでおり、自然の中で伸び伸びと練習ができる九重町は絶好の環境」と関係者。陸上合宿は年々増えており、１年間で延べ３万５千人近くが利用すると言われており、「北海道に並び全国一」。

また、合宿を含めこの大会には、多くの場面でボランティアがかかわっており、食事では毎食200から300人分を準備。ほとんどの食材を地元から調達しており、町にとっての経済効果も大きいようです。大会前日の開会式では参加校が「しっかり感謝して、県大会につながる走りをしたい」と決意表明をしていました。

ちゃくちゃくと進んでいます。

出てくる機器も超大型
～鳴子川大吊橋(仮称)工事

夢の形が見えてきました。

鳴子川大吊橋（仮称）で、大まかに10工程あるうちの４工程目にあたる鉄塔架設が10月の下旬に行われました。

規模が大きい工事だけに、出てくる機器も超大型。高さ43メートル・太さ1.4メートルの鉄塔を架設したのが400トン吊りの超大型クレーン（写真２）。５分割して現地まで運んだそうです。

今後は、鉄塔をつなぐメインケーブルや橋げたなどの架設工事が行われ、１年後完成予定。

超大型の感動まで、あと少し！

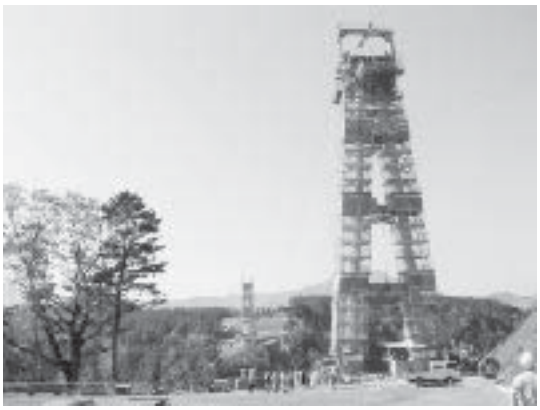


写真２

◀手前にある一般のクレーン車(矢印)と比較するとその大きさがわかります。

ちゃくちゃくプロジェクト2005
～野上地区の歩道整備

国土交通省大分河川国道事務所では、５年以内に供用が可能で、効果の高い事業区間を「ちゃく^2（＝ちゃくちゃく）プロジェクト2005」として選定しました。

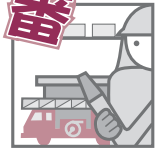
これを基に、供用目標・効果の明示と進捗管理を行い、利用者に見える道づくりを目指します。

九重町では、国道210号野上地区において歩道整備を引き続き行い、平成17・18年度と段階的な供用を目指します。

詳細は国土交通省大分河川国道事務所のホームページ(http://www.qsr.mlit.go.jp/oita/)をご覧ください。問い合わせは同事務所調査第２課（◀ 097－544－4167）まで。

野上小学校へ通う道路に歩道を設けることで、通学・帰宅時に歩行者が安心して通られるようになります。

こちら119番



“使い慣れたストーブ”でも過信は禁物！

朝夕が一段と冷え込み、これから暖房器具の使用が多くなる季節となりました。朝、目が覚めると「まず、暖房器具のスイッチを入れる」方が多くなると思います。日頃使い慣れたストーブだから・・・でも、過信は禁物です。

芯は汚れていませんか？

長年使っていると芯に灯油やごみの塊「タール」が付着することがあります。そのままにしておくと消したつもりでも芯が下がりきれず消えていなかったり、耐震消火装置が機能しなくなったりすることがあります。

置台にホコリがたまったままになっていませんか？

空気の吸気口がホコリでふさがれると不完全燃焼を起こし、その結果灯油が気化しきれず置台にたまり引火する場合があります。定期的に掃除や芯の点検を心がけましょう。

また、燃料タンクは最近カートリッジ式のものが多くなっていますが、給油のときには消火を目で確認し、今一度、燃料が「灯油であること」の確認を行いましょう。給油後はタンクの蓋を確実に締め、漏れがないことを確認しましょう。

暖房器具の安全な取り扱いで、暖かい冬をすごしましょう。

手作り感を大切に、より1日を楽しく

楽健通信を発行する日野由紀子さん

とても楽しくてためになる「手作り新聞」が静かな人気を集めています。

町内の健康づくりグループ「楽健（たのけん）」の代表日野由紀子さんが発行している「楽健通信」がそれで、今年6月に第1号を発行。これまで50号近くを発行し、野上地区を中心に配布されています。

楽健は、「楽しく健康に」をモットーに1週間に1回健康体操を続けています。現在のメンバーは7人で、この秋で6年目に突入。無理をしないことが身上の会ですが、これまで、大分県チャレンジケンコーで2年連続最優秀賞を受賞したほか、昨年は第5回健康づくり体験文（国民健康保険中央会主催）で日野さんの応募作品が優秀賞をとるなど実は、文武両道（？）の実力派。健康体操も専門家の指導を受けプログラムを組むなど本格的なものです。

順調な活動を続けているようですが、「何か小さな目標がないと、流されるような気がして」と考えた日野さん、「みんなと話したいことはたくさんあるけど、なかなか時間がない」ので「通信」を作ることを思い立ちます。そして、「いい意味での緊張感を持続させたい」と会員以外にも配布することに。

現在の発行部数は30で、通信のサイズは「さっと読めるように」とB5。日野さん曰く「いまどき珍しい」手書きの、手作り感あふれる紙面となっています。

「人は数字や記号で表せるものではなく、また、誰も見たことのない心だけのものでもないですよね。〝身体と心〟と二つに分けて考えるけど、そのどちらも大切だから、それを踏まえてみんなに役立つような、気持ちにふれられるような通信にしたい。そう思っています」

通信1号で日野さんはこういったことを書いていますが、通信の「手作り感」は間違いなく、読者の気持ちにふれる力になっています。

14→15ページの
イラストはすべて
日野由紀子さん

手作り感はここにも。

日野さんの描く〝いい感じ〟のイラストも紙面に彩りを添え、魅力がさらに増しています。イラストに関しては特に勉強をしたわけでなく、日野さん自身も「反応がよくて、びっくり」。通信には発行した日の天気も載っています。これは読者からのアイディア。さらに一工夫が日野さん流。たとえば、太陽が二つ並んで手をつないだイラストの日は、とても暑い日。身体の各部の構造を詳細に描いた「思わず見入ってしまうような」イラストも時々登場します。

「身体の構造とかは、子どもがいたりすると図鑑などで一緒に見たりするけど、育つと見ないじゃないですか。たまには、見るだけでも、こんなになっているのかーってあらためて知るのもいいかなあ、と思って。本当はコピーすれば早くて正確で、わかりやすいでしょうけど、手作り感が好きなので、本とにらめっこしながらシャープペンシルで書き写しています」

取り上げられる話題は、健康に関すること以外に、暮らしに役立つミニ知識、身辺雑記から憲法9条の問題まで非常に多岐にわたり、かつ豊富。ネタ元は親や知り合いから聞いたことや昔読んだ本、読者からなどと言いますが、それにしてもすごい・・・。

「ただ自分のことを考えるだけでなく、町のことや、社会のことを考えていくのは、とても大切だと思います。憲法のことを取り上げたのは、平和はすべての基礎だと思うからです。平和であるからこそ、病院に行けるし、食べてもいける。教育もきちんと受けることができます。家に子どもがいなくても学校のことを考える、高齢者がいなくても高齢者問題のことを考えるのって大事じゃないかな。それを『私はこう思うんだけど』と誰かに話しかけるように作っています」

新聞作りは、家事をしながらパッと思いついたことを、そのまま下書きして、夜などに一気に清書（仕上げ）。しかし、たまには「実は今、仕事（家業）で帳簿付けの途中。あんまりおもしろくないので、この通信を書き始めました（通信39号より）」ということも。

「みんな、大変でしょう、って言うけど、とても楽しいんですよ。自分が好きだからだろうなあ。それにみんなの反応がすごくうれしいです」

日に3度はポストを開けてみるそうです。

郵便配達は1日に1回ですが、何かいいものが入っているのではないかと思って。野菜のことを書いたら、読者からすぐに野菜の本が届いたこともありました。

「これからも無理せず、自分の中にあるもの、考えていることを出しながら、またみんなからも新たなものを吸収しながら、続けていきたいです。本当にみんなの気持ちがうれしいです。あー、また書こうという気持ちになるし、1日がより楽しくなりました」

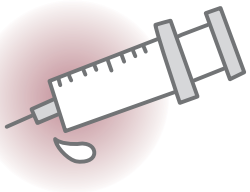
＊楽健通信は次のところにあります。
野上公民館、九重町保健センター
＊楽健通信に関するお問い合わせは日野由紀子さん（〝77－6458）まで。
置いてもらえるところも募集中です。

◀手作り感はここにも①
子どもが生まれたとき、もらったロンパースをリフォームして作ったシューズ入れ。「とっても気に入って、10年以上使っています」。

手作り感はここにも② ◀
毎年の年賀状も手書きで。いつも「えと」をあいさつにおり込んでいます。来年はどんなのにするか、ただいま考え中。

平成18年３月31日までに麻しん・風しんの予防接種を済ませましょう！

～平成18年４月から方法が変わります～



保健

現在

	対　　象	標　　準
麻しん（１回接種）	生後12ヵ月～90ヵ月未満の人	生後12ヵ月～15ヵ月
風しん（１回接種）	生後12ヵ月～90ヵ月未満の人	生後12ヵ月～36ヵ月

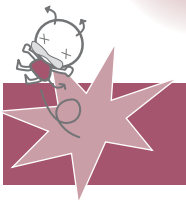
平成18年４月１日より

	対　　象
麻しん・風しん（混合ワクチンを第１期と第２期の計２回接種）	第１期（１回）：生後12ヵ月～24ヵ月未満の人
	第２期（１回）：５歳～７歳未満の人で、小学校就学前の１年間にあたる人

※　平成18年４月１日からは混合ワクチンになるため、麻しんまたは風しんのいずれか未接種の予防接種については受けられなくなる可能性がありますので、なるべく３月までに接種してください（現在の方法でそれぞれ１回ずつ済んでいる人については接種の必要はありません）。

※　平成17年３月１日以降に生まれた人については、年齢や接種間隔の都合で３月までに両方の接種ができないので、平成18年４月１日以降に新しい方法で接種しましょう。その場合ポリオより麻しんを先に接種しましょう。１歳をすぎたら、なるべく早く麻しん・風しん予防接種を先に受けましょう。

予防接種に関するお問い合わせ先
保健センター（☎７６－３８３８）
分からないことがありましたらお問い合わせください。



インフルエンザの季節がやってきます

インフルエンザは肺炎などの合併症を起こす危険性が高い病気です。流行する前に予防しましょう！

予防のポイント

- ○人ごみに行くのをさける
- ○手洗いとうがいを心がける
- ○かかった人はなるべく外出しないようにする
- ○十分な栄養と休養をとる
- ○室内の乾燥に気をつける
- ○マスクを着用する
- ○流行の１カ月前くらい（11月～12月）にインフルエンザワクチンの接種を受ける

高齢者のインフルエンザ定期予防接種のお知らせ

対 象 者　①接種日に満65歳以上の人
②接種日に満60歳以上65歳未満の人であって、心臓、腎臓もしくは呼吸器等の障害を有する人（かかりつけの医師にご相談ください）

接種期間　平成18年１月31日（火）まで

接種回数　１回

接種費用　1,000円（個人負担）

接種場所　大分県内医療機関（※今年からかかりつけ医が郡外にある人も、大分県内の医療機関ならば1,000円の個人負担で接種できるようになりました。その場合手続きは必要ありません。）

①②以外の人で予防接種を受けたい人は主治医に相談しましょう。

町内の健康応援団のお店を紹介します！　その⑤（全⑥回）

ショッピングパークアミー　タチバナ

①　ヘルシーオーダーを注文できます
弁当・オードブルの注文の際に、食べる方の要望や年代等の特徴をお伺いしています。

高齢者が多いけん、揚げ物より煮付けや和え物を多くしてくれんね。

②　旬の野菜や魚を使った調理法を店頭で紹介しています
月替わりでレシピ集を野菜売り場に置いています。献立の参考にしてください。

白菜は家にいっぱいあるけど、いつも同じ食べ方しかせん。何か変わった調理法を教えてくれんね。

③　地元の畑でとれた野菜を販売しています
家庭菜園で出来た野菜のうち、家で食べきれない分を店頭にお持ちください。食べごろのものを新鮮な状態で販売いたします。

大根がいっぱいできて家で食べきれんけん売ってくれんね。

感想や要望など、お聞かせください。

住所：九重町大字右田1321　　電話：73－5515

参加者募集

地域で子育て(スクラム・アタック)

～アクションプラン作成ワークショップ

子育てに関心のあるすべての方を対象に、ミニ・シンポジウム＆ワークショップ（体験学習）を開催します。みなさんが日頃思っていること、感じていることを大切にしながら、その気持ちを分かち合う機会です。ぜひ体験してみませんか？

日　　時　平成17年12月４日（日）
10時～17時（９時30分より受付）
場　　所　九重文化センター会議室・体育館
対　　象　子育てに関心のあるすべての方。
募集人員　60人ほど
内　　容　「地域で子育て」ミニ・シンポジウム、冒険教育、行動計画作成に向けたワークショップ
持 ち 物　軽い運動に適した服装、体育館シューズ、飲み物、弁当

参 加 費　無料
申込締切　11月25日（金）
※託児所を用意しますのでご利用ください。

問い合わせ
NPO法人　ABC野外教育センター
＜住吉浜プログラムサイト＞
☎：0978-64-9127　　Fax：0978-64-9128
E-mail：abc@sakurajp.net　　担当：児玉・藤谷
＊ABC野外教育センターは「冒険教育（アウトドアエデュケーション）」の手法を用いて“仲間つくり”“心ほぐし”“自己確立”などをテーマに青少年の健全育成・社会教育の推進・国際理解などを促進するための様々なプログラムを各地で行っています。

申し込み先　九重町役場 ふれあい生活課　☎：76-3802

海外に広がる日本型地域保健

中央アジア南部の国ウズベキスタンの国立第一医療専門学校の教員４人が10月５日に九重町内の保健や福祉現場などを視察しました。

ウズベキスタンは1991年、旧ソビエトから独立し誕生した国で面積は日本の約1.2倍（人口2284万人）。綿花の大産地であり、貿易や国際協力などの分野で日本との結びつきが強くなっています。

今回の視察は、JICA（国際協力事業団）の招きで実現したもので、４人は９月から３ヵ月間日本に滞在し、各地を訪れています。今回の研修をコーディネートした大分県立看護科学大学が「保健師の活動が盛んで、地域保健が進んでいる」との理由で九重町を選び、当日は健康相談や運動教室、家庭訪問のほかデイサービスの視察などを行いました。

ウズベキスタンでは、まだ診断中心の画一的な医療が多く、これを患者の状態に応じた(患者中心の)治療に変えていくのが必要とされており、そのための看護教育の改善を行うのが今回の研修の目的です。

優しい大人になってね

町内の音楽グループ「サムタイムズ（山岡・斉藤・宇田・帆足）」と「ルーシー（今村・佐藤）」が９月４日に行ったチャリティーライブの収益金でスケッチブックとクレヨン、折り紙を購入。９月28日に町内のこども園を回り、そこに通う幼児155人にプレゼントしました。

ライブは、子どもたちの健全育成のために開催されたもので、タイトルは「お前が大きくなったとき」。「サムタイムズ」が70年代のフォークソングを、「ルーシー」が洋楽を、アコーステック楽器を使ってカバー。訪れた観客90人とともに音楽を楽しみました。

「自分たちとライブに訪れたお客さんが、子どもたちにプレゼントをしたいと同じ気持ちになった結果です」とサムタイムズの斉藤隆博さん。スケッチブックとクレヨンを選んだのは、「絵を描くことでものを観察する力を養ってほしいから」。折り紙はクリスマスなどの催しで役立ててほしいためだそうです。斉藤さんは「みんなと仲良くして、人の気持ちのわかる優しい大人になってほしい、とおいちゃんたちはコンサートをしました」と子どもたちに語りかけていました。

図書館だより

ほんの森 11月号

図書館開館時間
平　日　10:00～18:00
土・日　 9:00～17:00
月・祝　休　み

★ 良い本は錨（いかり）になる ★

以前、あるコミックの中で出会ったひとこまのセリフが今でも心に深く残っています。本のとても好きな小学生の女の子に、ある年配の男性が図書館の中で声をかけるのです。

「お嬢さんは本が好きなんだね。いいことだ。たくさん読んでください。良い本は錨（いかり）になる。君の港の君の船のね。大波が来てもさらわれないように。そして力と知識を蓄えて出航してください」

たくさんの人の中で、声高に叫ぶもの、強い力を持つものに簡単に飲み込まれてしまいがちな私たち。自分の考えや意見をしっかり持って、たとえ小さい声でも臆せずあげられる人になりたいものです。

本は、そんな私たちに大きな力と知識を与えてくれます。

図書館の利用をお待ちしています。

新刊案内

《児童書・コミック》

クレヨンしんちゃん　Vol.41	臼井儀人
豊臣秀吉（学習まんが人物館）	大林かおる画
映画ドラえもんのび太とふしぎ風使い（テレビ絵本シリーズ）	藤子不二雄Ｆ原作
Ｄｒ．コトー診療所　Vol1～16	山田貴敏

《　一般書》

日本史・世界史同時代比較年表	楠木誠一郎
ニッポン駅弁大全	小林しのぶ
ブレンダと呼ばれた少年	ジョン・コラピント
成り行きにまかせて～ベストエッセイ2005～	日本文藝家協会編

未来をひらく

平成17年度「少年の主張大分県大会」（主催　大分県青少年育成県民会議ほか）が９月29日にくすまちメルサンホールで行われました。この大会は、中学生が日頃考えたり感じたりしていること、未来の夢などを発表するもの。

今年は２１４人の応募があり、書類審査で選考された10人が発表。会場を埋めた地元中学生など約６００人はじっと聞き入っていました。

九重町からは野上中学校３年の古賀聖一君が「野上祇園」という演題で出場。これまで５年間、山車のチキリンコンコンという囃子を奏でる金叩きで参加したことにふれ、「囃子が欠けても、（山車）引きが欠けても祇園は成り立たない。みんなで成り立つもの。テレビやゲームでは味わえない、人と人、心の結びつきの充実感を味わった」と述べ、「これからは囃子の技と心をしっかりと後輩に伝え、来年からは引きとして参加し、心躍る囃子の音を商店街に届けたい」と発表。優良賞を受賞しました。

最優秀賞は竹田市南部中学校３年の平井麻衣子さんが受賞。11月13日に東京で行われる全国大会の九州ブロック代表審査に県代表として推薦されることになりました。

▲野上中学校３年　古賀聖一君

人権擁護委員をご存じですか

人権擁護委員は、すべての人に憲法で保障されている基本的人権が犯されることのないように監視し、侵犯された場合は速やかに救済するための相談に応じています。

あなたやあなたの身近におきた事柄が人権問題または人権侵害になると思われるときは、お気軽にご相談ください。

九重町の人権擁護委員は次のみなさんです。

佐藤信義さん（後辻）　76－3296
佐藤恵子さん（尾本）　77－6912
飯田英敏さん（岩の上）　76－2296
赤峰佐代子さん（湯坪下）　79－2454

▶今回、人権擁護委員に再任され、法務大臣から委嘱を受けた佐藤信義さん

青空にたがれ、人権の花

野上小学校（佐藤薫校長、129人）では、今年度「人権の花運動」に取り組んでおり、10月18日に中間発表会がありました。

児童を中心に保護者や地域住民などが協力して花を育てることにより、命や育てることの大切さを学ぶことを目的に、平成３年より法務局日田支局が管内の学校に呼びかけているもので、町内では平成11年の南山田小学校に続いて野上小学校が２校目。

同校では１年生から６年生の児童が縦割りで班を結成。プランターにマリーゴールドやケイトウなどを植え育てたほか、人権と花に関する本の読み聞かせや音楽集会で花に関する歌を歌ったほか、人権に関する標語や詩、絵を作成。このほかに児童同士でお互いの良いところを見つける取り組みなどがあり、人権意識の高まりがみられたようでした。

同校ではこれまでも、それぞれの取り組みをしてきたものの「花と人権」をキーワードに一連の活動にしたのは今回が初めてで、「相乗効果で大きな成果があり、今後の参考になった」と同校関係者。また、縦割り班としたことで、学年を超えたつながりができ、責任感も育ったと話していました。

中間報告会では、児童代表の体験発表などがあったほか、育てた花の種と手紙を添えた風船150個を青空に向け飛ばしたところ、２日後に宮崎県高千穂市の住民から、その後も阿蘇郡一の宮町からなど合計６通の手紙が届くなどの反応があり、児童をはじめとした学校関係者は、驚くとともに大変喜んでいました。

今後、同校では大分県人権フェスティバル（11月25日）や日田地区人権啓発発表会（12月３日）で児童作品の発表を行うほか、２月まで「人権の花運動」に取り組むことになっています。

町内の小学校では人権授業のほか標語や作文づくりなどを行っており、児童の人権意識を育てる取り組みが続けられています。

交通安全 110

平成17年町内地区別事故発生状況（累計、属地）

地区別	人身事故 死者	人身事故 負傷	人身事故 件数	物損事故	件数計
東飯田	1	10	7	26	33
野　上	0	11	9	42	51
飯　田	2	37	21	139	160
南山田	1	27	15	61	76
計	4	85	52	268	320

（平成17年10月末現在）

11月のハート降る♥ここのえ

持って帰ってくれた梨 ♥♥♥

匿名希望

私の子どもは東飯田小学校に通っています。例年、５年生は農業の体験学習で、もち米を作ったり、校区内の梨園で袋掛けの実技をさせてもらったりしています。教室の中だけの学習ではなく、実際に現地へ出かけて直接的に学習できることは何より大切なことです。物が豊富な時代、お金さえ出せば何でも買えるようになりました。しかし、今の子どもたちは、店頭に並ぶ品々がどのようにして出来たのかなどそれほど深く考えてみたこともないでしょう。（実際にそれを親として実感させることも難しいのですが・・・）

当たり前のように食べている農作物がかなりの時間と労力をかけて作り上げられているのかということを少しでも実感してくれればありがたいことです。

先日、わが子が誇らしげに、袋にしっかり入った梨を持って帰ってくれました。その袋をよく見ると文字が書かれています。雨風に打たれたからでしょう、薄くにじんではいましたが、わが子の名前をはっきりと読み取ることが出来ました。

「この梨はどうしたの？」と尋ねると、校区内にある井上東介さんの梨園で６月に袋掛けをしたものだというのです。袋掛けの際に井上さんのご厚意により、一人ひとり、梨の袋に名前を書き、本日収穫させてもらったとのことでした。子どもたちの学習とはいえ、その姿にありがたさを感じました。わが子には「ここまでしてくれるなんて、すごいことだぞ」と話していると、まだ続きがありました。それはちょうど１年前、今の６年生が５年生のとき、同じように梨の袋掛けをしたのだそうです。しかし、大型台風が２回も来て、梨がほとんど収穫出来ずに６年生の梨もすべて落ちてしまったとのことでした。

そのことを井上さんはずっと忘れないでいて、今年その６年生にも梨を届けてくれたのだそうです。その話を聞いて、１年遅れたけど自分たちに届いた梨のことを６年生もきっと喜んでいるに違いないと思いました。

地域の中でこんなにも子どもたちのことに心を寄せている方がいることは本当にありがたいことです。また、テーブルの上の梨の袋を見ながら、井上さんの人柄と子どもたちの笑顔を思い浮かべ、幸せな気分になりました。

なんだか自分もそんな素敵な年齢を重ねていきたいと思いました。♥♥♥

伝えたい「ちょっといい話」「心あたたまる話」をぜひお寄せください。町内各所に投稿用のボックスを設置していますので、そこに投稿するか、「ハート降るここのえ」メンバーへご連絡ください。

連絡先　佐藤明郎（☎76－2526）

郵便の場合は次のところへ。

〒879－4895

九重町役場企画調整課広報係

くらしの情報

ＨＩＶ抗体検査（迅速検査）夜間実施

対象者
無料匿名検査になります。居住地等は問いません。

実施期間
平成17年11月28日(月)～12月２日(金)
17：00～20：00
希望される方は、次の連絡先に事前に電話で予約してください。

申し込み及び問い合わせ先
日田玖珠県民保健福祉センター地域保健課
（日田市田島２－２－５）　0973－23－3133

法務局の認定を受けたと称する法人からの通知について（注意）

最近、身に覚えのない未納消費料金があるとして、「法務局認定法人　民事訴訟通達センター」から「消費料金未納分訴訟最終通知書」なるものが送付されたが、どのように対応したらよいかとお問い合わせが多く寄せられています。

この法人は「法務局認定法人」と称し、訴状の提出および債権の譲渡に基づく通知を行ったとしておりますが、法務局がこのような法人を認可することはありません。

このような通知を受けた場合は、それが債務の確認をするためや支払意思のないことを相手方に伝えるものであっても、こちらから連絡することによって電話番号等の個人情報を知られてしまう恐れがありますので、一切連絡しないようにしてください。たとえ業者側から連絡があっても、名前・住所・電話番号・勤務先等の個人情報は絶対に知らせないように注意願いします。

なお、本当に裁判所に訴訟が提起された場合には、債務者の住所地を管轄する裁判所から「特別送達」と記載された裁判所の名前入りの封書が送付されますが、郵便局職員が名宛人に手渡すのが原則であり、ハガキや普通封筒のように郵便受けに配達されることはありません。

問い合わせ
大分地方法務局日田支所　0973－22－2719

潜在助産師キャリア再開発研修会

助産師の再就業促進研修会です。

対　　象　未就業助産師(年齢不問)
研修日時　12月10日(土)、11日（日）の２日間
＊時間は9：30～16：30
場　　所　大分県立看護科学大学看護研究交流センター（県立病院保育所裏）
受講料は無料ですが資料代（3,000円）が必要です。

申し込み・問い合わせは
「赤ちゃん＆おっぱい電話相談」
またはＦＡＸ097－534－0753
E-mail　oita-jyo@oct-net.ne.jp

36時間ＡＩＤＳ電話相談

フリーダイヤル　０１２０－５４５０３６
平成17年11月26日（土）午前10時～
27日（日）午後10時
＊携帯電話からも可能です。
NPO　ＨＩＶと人権・情報センター

平成18年度版「母子健康手帳」表紙デザイン募集

① 母子が親しみやすい図柄を15センチ四方程度にまとめたもの
② 原則カラー。他に未発表のもの
③ 作品の裏に住所・氏名・年齢・連絡先の電話番号を記入
④ 応募作品は返却しません。採用作品の著作権は大分県に帰属。

応募先及び問い合わせ先
〒870－8501　大分市大手町３－１－１
大分県福祉保健部健康対策課母子保健班
097－536－1111（内線2672）
締　　切　平成17年12月22日（木）必着

うつ対策県民講座

講　　演　「うつ病の理解とその対応」
講　　師　防衛医科大学校　野村総一郎さん
日　　時　平成17年12月１日(木)　13：30～16：00
会　　場　ｉｉｃｈｉｋｏ総合文化センター・音の泉ホール（大分市）
参加は無料で、どなたでも参加できます。
問い合わせ　ハートコムおおいた（　097－541－6290）

森林環境税についてのお知らせ

県では平成18年４月から森林環境税をスタートします。税金は県民のご意見・ご提案を取り入れて、森林環境の保全などに使われます。

納める人　県内に住所を有する人(県民税均等割の納税義務のある方)
県内に事務所・事業所を持っている法人等
納める額　個人　（年額）500円
法人　県民税均等割額の５％
（年額1,000円～40,000円）

納める方法
県民税均等割に加算して納めていただきます。

問い合わせ
税の仕組みに関すること→大分県税務課
（　097－536－1111　内線2387）
税の使い道に関すること→大分県森との共生推進室
（　097－536－1111　内線3871～3873）

ホームページ
http://www.pref.oita.jp/11500/zei/kenzei/shinrin/index.html

大分県交通安全協会玖珠支部職員募集

職　　種　交通指導員
求 人 数　１名
年齢・学歴　来春高等学校卒業見込み
受付期間　11月30日(水）まで
応募方法　事務局まで履歴書（写真貼付）持参または送付
選考月日は平成17年12月上旬で、学科試験(一般教養)・作文・面接
採用月日は平成18年３月１日
問い合わせ
(財)大分県交通安全協会玖珠支部(玖珠警察署内)
0973－72－1661（担当：財津）

農業収支計算説明会について

農業収入のある方は所得税の申告または住民税の申告について、収入金額から必要経費を差し引く収支計算により農業所得を算出し、申告していただくことになります。
次の日程で農業収支計算についての説明会を開催しますので、どちらか都合の良い時間帯に参加されますようお願いします。

日　時　平成17年12月８日（木）
第１回　午前10時00分開始
第２回　午後１時30分開始
場　所　九重町役場３階301会議室
問い合わせ　税務課課税係（　76－3803）

労美展作品募集

絵画・書道・写真・彫刻・工芸・デザイン・イラスト
受付期間　平成18年１月16日（月）～２月15日（水）
お問い合わせ・申込先
玖珠九重地方振興局企画商工係（　72－2906）

民事介入暴力集中相談所の開設

暴力団等が関係した被害や不当な要求などこの困りごとについて弁護士、警察官などが面接および電話による相談に応じます。
日　時　平成17年12月13日(火）午前10時～午後４時
場　所　別府市中央公民館別館２階（別府市上田の湯町）
当日の相談電話は　0977－22－3110
また（財）暴力追放大分県民会議では執務時間中、
（　097－538－4704)で相談を受け付けています。

全国一斉「女性の人権ホットライン」電話相談

秘密は厳守します。お気軽にご利用ください。
日　　時　平成17年11月20日（日）
午前10時～午後５時
電話番号　097－532－0164
相談内容　夫やパートナーからの暴力・職場のセクシャルハラスメント・ストーカーなどの人権問題
問い合わせ先
大分地方法務局（　097－532－3161　内線36）
ホームページ
http://www.jinken.go.jp/oita/oita_index.html
法務局では平日８時30分から17時まで「女性の人権ホットライン」専用電話にて常時相談に応じています。お気軽に相談ください。

平成18年度 町立こども園（保育所・幼稚園）入園申し込み受付について

保育所入所資格
町内に居住し、就学前（満５歳まで）の乳幼児で、家庭において保育に欠ける（保護者が労働に従事したり病気などの理由で家庭において十分に保育することができない）乳幼児。
幼稚園入園資格
① 町内の区域内に居住または町外者で、設置者が特に入園が必要と認めた幼児。
② （満４歳に達した翌日以後最初の）学年の初めから小学校就学の始期に達するまで（満４・５歳）の幼児。
受付期間　平成17年12月１日(木）～12月20日(火）

受付場所・問い合わせ先

役場教育振興課		76－3828
東飯田こども園	木の芽保育園	76－2394
	東飯田幼稚園	76－3067
野上こども園	木の葉保育園	77－6441
	野上幼稚園	77－6904
飯田こども園	木の花保育園	79－3700
	飯田幼稚園	79－2351
南山田こども園	木の実保育園	78－9431
	明倫幼稚園	78－8636

＊各こども園の４・５歳児は合同保育
＊申込書は上記受付場所で11月25日から用意しています。

今月の年金相談
日時　11月24日(木)10:00～15:00
場所　九重町役場１階・102会議室

今月の納税
納期限11月30日
【国民健康保険税】
【町県民税】(第３期)

幸せになろうね

人権 心の扉 No.119

「心こそ大切なれ」

みなさんの心、元気にしてますか？先月の「人権心の扉」の中で「心の健康」について書きました。今月も「心」第2弾として書きたいと思います。

「心」とは、辞書には、精神・知識・感情・意識の総称・考え・思わく・気持ち・思いやり・望み・物の中心・とあります。「心」がつく言葉もたくさんありますね。「心優しい」・「心がける」・「真心」・「志」など――。心は目に見えないけれど、瞬間瞬間、その人の一切を方向づけています。心がどこに向かっているかで、その人のすべてが決まってきます。心は、強くなったり弱くなったりうつろいやすいものですね。大切なのは、その心を希望の方向へ、幸福の方向へ、力強く向けさせていくことだと思います。

「心ひとつ」――自分の心が弱くなっている時又子どもが自信なく弱くなっている時「心ひとつだよ」と声かけをしています。少し元気になれますよ。弱い自分を励ますことばです。「心こそ大切なれ」――いつも心が健康でありたいものです。

さて、12月4日から10日までは「人権週間」です。「幸せになりたい」。それは、すべての人の願いです。1948年国連総会において「世界人権宣言」が採択され、その中で「すべての人間は、生まれながらにして自由であり、かつ、尊厳と権利について平等である」と述べられています。九重町においても、平成12年12月に「あらゆる差別撤廃・人権擁護に関する条例」が制定され、同和問題をはじめ、すべての人の人権が尊重される社会をつくるための総合計画を策定しています。毎年12月7日に「いのち・愛・人権フェスティバル」を開催しています。九重町人権デーの催しです。今年で6回目をむかえます。心磨きのよいチャンス。あなたの参加をお待ちしています。

＝平成17年11月・12月休日当番＝

病院

月	日	医療機関名	住所	電話
11月	20日	武田医院	森	72-0170
		矢原医院	野上	77-6121
	23日	北山田クリニック	北山田	73-2030
		長内科小児科胃腸科医院	春日町	72-2143
	27日	玖珠記念病院	塚脇	72-1127
12月	4日	麻生消化器科内科医院	山田	72-7100
		友成(町田)医院	町田	78-8811
	11日	井上医院	恵良	76-2711
		三池循環器科内科医院	塚脇	72-6101
	18日	友成(産婦人科)医院	塚脇	72-0330
		飯田高原診療所	飯田	79-2138
	23日	小中病院	塚脇	72-2167

●スタンドは9月より休日当番を当分の間、設けなくなったため掲載をお休みします。

歯科医

月	日	医療機関名	住所	電話
11月	20日	(玖珠)井上歯科医院	野上	77-6851
	23日	田吹歯科医院	日田市	0973-24-5510
	27日	石松朗歯科医院	日田市	0973-24-3718
12月	4日	中村歯科医院	日田市	0973-23-2228
	11日	(玖珠)井上第2歯科医院	塚脇	72-5983
	18日	近藤歯科	日田市	0973-24-6080
	23日	桑野歯科医院	日田市	0973-22-2556

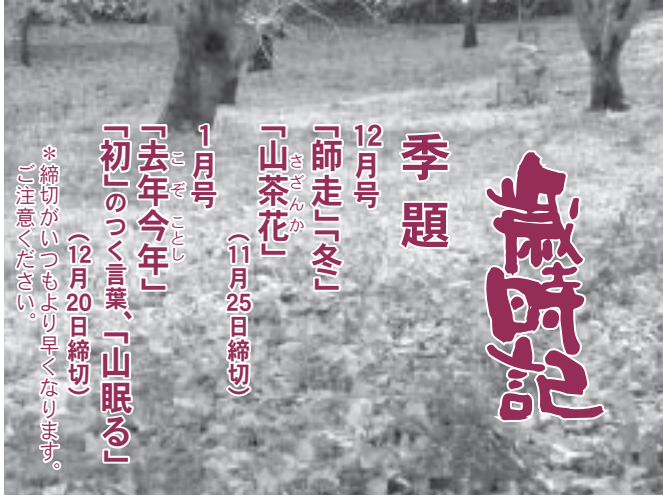
獣医

月	日	獣医師名	電話
11月	23日	佐藤獣医	77-6448
12月	4日・17日・23日・29日		
11月	19日・27日	山本獣医	78-9101
12月	10日・18日・25日・31日		
11月	20日・26日	甲斐獣医	76-3324
12月	3日・11日・24日・30日		

★都合で変更する場合があります。

玖珠消防署：● 救急は119番 ☎72-2141
● 火災の確認は ☎72-5100

備考　大分県中西部農業共済組合　☎⑫３４０９
休日当番の電話番号(携帯)は　090-5721-8191



歳時記

季題

12月号
「師走」「冬」
「山茶花（さざんか）」
（11月25日締切）

1月号
「去年今年（こぞことし）」
「初」のつく言葉、「山眠る」
（12月20日締切）

＊締切がいつもより早くなります。ご注意ください。

今月の季題
「新米」「小春」
「落ち葉」

新米を食べ天恵（てんけい）をかみしむる
小春日や僻地の買物十日分
無人化のホームを埋むる落葉かな
新米や粒も揃いて山と積む
新米を仏に供え亡夫（つま）思う
新米やお菜無くとも進む膳
山彦と小春の一と日たはむるる
小春日や犬とたわむる一と日かな
さそい合い老三姉妹小春かな
洗濯の渦に巻きこむ落葉かな
ひとり言今朝も掃いてる柿落葉
落ち葉掃く手にひらひらと落ちてくる
落葉ちる年金もらう年となり
落ちて又人の目を引く銀杏の葉
小春日や竹百幹の背に光る

佐藤　元八
伊東　匡子
佐藤　修正
赤峰　幸子
小野ミツノ
森高マサヨ
清竹　勇蔵
佐藤　節代
玉井多喜子
甲斐　和子
原田　孟一
穴井久美子
藤澤　節子
武田マキエ

選者　吟

「新米を食べ天恵をかみしむる」今年も新米を味わうありがたさ。「小春日や僻地の買物十日分」足元の良い日に買い溜めする。「無人化のホームを埋むる落葉かな」冬に近い無人駅の寂しさ。

山の季語として、秋「山粧（よそお）う」、冬「山眠る」、春「山笑う」、夏「夏山」等がある。

選者　麻生　良昭

このコーナーは町民どなたでも応募できます。ハガキに作品名と住所、氏名、電話番号をお書きのうえ企画調整課広報係までご応募を。なお、応募作品は返却しません。

添削がありますのでご了承ください。　広報

ここのえ時間旅行

ふるさと再発見　136

地名を歩く　町田のカッパ返り楽

九重町文化財調査員　甲斐素純

河童の霊を慰めるための音楽を、俗に「河童楽」という。この楽を奉納することで有名なのは、耶馬溪町宮園の雲八幡神社の「宮園楽」である。また玖珠町大字古後の大御神社で奉納される「大浦楽」もこの系統で、河童に扮する児童や大団扇が登場する。その発祥は「千代（嶋）の中村」と、縁起物や楽杖奉納の時に神前にて奉読される巻物に記されている。この千代の中村はどこなのかというと、久留米市にある高良大社の北側、筑後川を挟んだ対岸の北野町（現在久留米市内）にある。

「中村」は旧北野町の中心街旧町役場の所在地で、北野おくんちで知られる「北野天満神社」の所在地。千代（嶋）は、その東側に位置している。

ここを発祥とする楽は「筑後楽」とも呼ばれ、筑後川の上流日田郡・玖珠郡、あるいは山国川の上流耶馬溪町・山国町および行橋市や、熊本県小国地方にもこの系統の芸能が広まっている。詳しくは、10月開催した特別企画展用の図録『もう一つの平家物語』に拙稿を記しているので、乞ご参照。

町田の小倉神社には、郷土芸能として「町田楽」（県指定無形民俗文化財）が伝承されている。その内の後河内地区にのみ伝わる楽に、「返り楽」がある。演技者は河童（子ども四人）、大幣を持つ外回り（四人）、鉦（かね）打ち（一人）、小太鼓打ち（一人）で、河童は莚（むしろ）の中で十種類の舞を行う。この楽のいわれは、江戸時代中期、京都で購入した神輿を船で運んでいる時、船火事が発生し、その災難を河童が救ってくれたということで、これに感謝をして奉納し始めたという。小倉神社の神輿購入の世話人として船に同乗していたのが、後河内の先祖であろうか。この「町田楽」から伝授されたという楽として、日田市天瀬町本城の「くにち楽」がある。また熊本県阿蘇郡小国町大字西里の「岳湯楽」（戦前に中断）の、文化八（一八一一）年に記された由来書を見ると、小倉大明神の筑後楽を習ったという。

九重町内には秋祭りに奉納する郷土芸能として、松木宝の宝八幡宮の「宝楽」、町田川東の小倉神社の「町田楽」（ともに県指定無形民俗文化財）、湯坪の大山積神社の「湯坪楽」、田野の白鳥神社の「白鳥楽」、後野上の鉾神社の「御鉾楽」があるが、河童返り楽以外に河童の所作（しょさ）を演ずるものはない。ただし、「宝楽」の巻物中には「千代の中村」という地名は出てくる。

▶町田楽

発行・九重町役場企画調整課
〒879-4895　大分県玖珠郡九重町大字後野上8番地の1
☎ 0973-76-2111
印刷・尾花印刷有限会社

人の動き

10月１日～10月31日届出分
（敬称略）

弔慰　お悔やみ申し上げます

おなまえ	年齢	行政区
武田　新	93	日向下
佐藤　明	94	滝上
馬場　久人	83	無田下
佐藤　幸子	85	中央四
辛嶋　幸康	55	相狭間
小野　稔	73	旭
内田　正良	76	青山通り
田邉　千代	80	鹿伏

出生　おめでとうございます

おなまえ	性別	保護者	行政区
筏嶋　玲奈（れな）	女	英昭	中村下一
酒見　圭一（けいいち）	男	博文	無田中
小野　暖孝（はるたか）	男	博孝	田尻
森　智邉心（ちなみ）	女	日出海	菅原本村

人口と世帯

人口	11,615 人	（－ 3）
男	5,530 人	（－ 5）
女	6,085 人	（＋ 2）
世帯	3,924	（＋ 10）

（　）は前月との増減

里親になりませんか

～子どもたちは家庭のぬくもりを求めています～

里親とは、さまざまな事情によって家庭で生活できなくなった子どもたちを自分の家庭に迎え入れ、愛情と真心をこめて養育くださる方のことです。

子どもが大好きで、健康的で明るい家庭であれば、里親になる特別な資格は必要ありません。養育をお願いする期間は数日間から数年間までさまざまです。

次の日程で里親制度の説明会を開催します。関心のある方は誰でも参加できますので、お気軽にお越しください。

日　時　平成17年11月30日(水) 10:00～12:00
場　所　くすまちメルサンホール視聴覚室(玖珠町)

問い合わせ　大分県中央児童相談所
☎ 097－544－2016
九重町役場ふれあい生活課
☎ 76－3802

タデ原が国際的湿地に

国際的に重要な湿地を保全するラムサール条約登録湿地に「くじゅう坊ガツル・タデ原湿原」が選ばれ、11月８日からアフリカのウガンダで行われた第９回締約国会議で登録されました。今回、日本から登録されたのはタデ原のほか、秋吉台地下水系（山口県）など20ヵ所で、国内で登録湿地は合計33ヵ所に。

「くじゅう坊ガツル・タデ原湿原」のある竹田市と九重町では、11月19日午前に両自治体と「九重の自然を守る会」が実行委員会となった記念式典を長者原ビジターセンター駐車場・特設会場で開催するほか、同日午後には九重ハイランドホテルでセブン－イレブンみどりの基金主催による「登録記念の集い」が行われることになっています。

問い合わせ
記念式典　役場ふれあい生活課（☎ 76－3801）
登録記念の集い　みどりの基金九重事務所（☎ 73－0001）

12月のお知らせ

町長と語る
ふれあいタイム

12月10日（第2土曜日）
午後６時～午後９時（夜間開催）

12月24日（第4土曜日）
午前10時～午後４時（日中開催）

場所は町長室です。お気軽においでください。

もくじ

■ 第11回ふるさと祭り　2
■ 祭りになくてはならないこの３人　4
■ ブロードバンドに関するアンケート結果　6
■ トキこども大使／シンポジウム　8
■ ニュースクラップブック　9
■ 穴井倉記さん(水墨画)　10
■ 自然を描く絵画展ほか　11
■ 町田楽保存会／九州高校駅伝ほか　12
■ 鳴子川大吊橋工事ほか　13
■ 日野由紀子さん(楽健通信)　14
■ 保健麻しん・風しん予防接種ほか)　16
■ 図書館だより／少年の主張／人権擁護委員　18
■ 人権の花運動(野上小)／ハート降るここのえ　19
■ くらしの情報　20
■ 人権／休日当番　22
■ 歳時記／時間旅行　23

編集後記

約２年ぶりに火星接近中。火星の光は約３分かけて地球に届いています。息をのむような星空に出会うことがあります。季節を問わずいつも真北に見えるのが北極星。届いている光は４００年前、江戸時代が始まった頃のものだとか。とっくの昔に消滅したけど、生き残った光だけを私たちに届ける星も中にはあるようです。太陽の光は約８分で地球に届きます。●この風景だったのか。「ほんたうに美しい夢の国がここに浮かんだやうな高原でした。山は紅葉してゐますし、すすきの穂波は白いのですけれど、私は高原にやはらかい紫がただよってゐるように感じました。（川端康成著・波千鳥より）」。大吊橋工事現場の取材（13P）の帰り道、長者原を車で走っているときです。目線の高さに、すすきの穂波が流れ、その向こうには晩秋の青い空が広がっていました。やわらかく降り注ぐ太陽の光は、忙しさをしばし忘れさせてくれ、「ほんとうに美しい夢の国」をそこに出現させていました。川端氏の言う紫を見た気がしました。上の記事で使ったタデ原の写真は、その日撮影したものです。●未来の光は町に届くのか。８月号でお願いしたブロードバンドに関するアンケート結果を６Pから掲載しました。自由意見は若干整理させてもらいましたが、ほぼそのままに。みなさんの声は町にしっかりと届いています。●スケールの大きな話をもうひとつ。地球が生まれたのを午前０時とすると、人類の祖先が生まれたのは午後11時59分56秒。地球の歴史を１週間とすると人類のそれはせいぜい１秒。地球の位置が、太陽から光の届く８分から数秒ずれただけで生物は生まれなかったといいます。命は奇跡であり、人生はかけがえのない「美しい夢の国」。「人特集だね」。作成途中の今月号をチラッとみてある人が言いました。「美しい夢の国」に生き、毎日の生活をいとおしく大事に思っている人をいつも応援しています。今月号もそんな人たちの声をたくさん届けます。Koichi-T

町の面積　271.41㎢　／　町の木　くぬぎ　花　ミヤマキリシマ　鳥　カッコウ

資源保護のため広報ここのえは古紙配合率100%の再生紙を使用しています。R100